「命を守るアクションカード」　活用パターン

活用パターン①
（想定）
小学校の運動場で体育の授業中に、児童が突然倒れて意識がない。
運動場には先生 1 名、生徒約 20 名。アクションカードは 5m 先の朝礼台に置いてある。

①発見者の先生はアクションカードを取って、児童に他の先生を呼びにいくよう指示し、応援を依頼する。
②発見者カードに沿って行動し、必要であれば心肺蘇生法を行う。
③駆けつけた先生（応援者）に残りのカードを渡す（胸骨圧迫実施中なので口頭で指示）。
④カードを受け取った先生（応援者）は、それぞれのカードの役割どおり行動する。
⑤救急隊が到着するまでは心肺蘇生法を 1～2 分間隔で交代して実施する。

活用パターン②
（想定）
物品販売店舗の事務室で、職員が突然倒れて意識がない。事務室内に従業員多数。アクションカードは事務室内に置いてある。

①発見者は、アクションカードを取って、他の職員に発見者カード以外の 3 枚のカードを配る。
②カードを持ったそれぞれの職員は、カードの役割どおり行動する。
③救急隊が到着するまでは心肺蘇生法を 1～2 分間隔で交代して実施する。